

防火認定番号：NM-1518(第06EL262号)取得

自然素材・珪藻土『テラ』

カビに強い 良いとこ取りの珪藻土

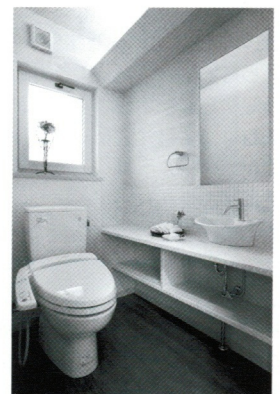
珪藻土 漆喰

メルシー・シリーズ

スーパー・メルシー/メルシー・ライト

中性の塗り壁材や中性の珪藻土でカビてしまった塗り壁材にも、カビに強いメルシー・シリーズで塗り直しが可能な場合があります(詳しくはお問い合わせ下さい)。

施工マニュアル
Construction Manual



製造元 株式会社EM MAX 群馬工場

販売代理店： ワールドフロンティア有限会社 〒659-0075 兵庫県芦屋市津知町1-24

TEL. 0797-38-9288 FAX. 050-1216-6869 URL. <http://www.world-frontier.com>

スタジオ： 芦屋市川西町4-4

施工前に必ずお読み下さい

- ※メルシーは湿式の材料です。
- ※下地の取付不良、下地のあばれなどによって、ひび割れが発生します。
- ※トラブル防止のため下地の状態に不安がある場合は、必ず設計の方や大工さんとお打合せ頂き不良箇所などは手直したうえで施行して下さい。
- ※メルシーはアルカリ性ですので、チリ廻り等施行箇所以外は材料が付着しない様養生テープやシート等で必ず養生して下さい。アクの出や、木の黒変・メッキのはがれが生じるおそれがあります。フローリングなどにもご注意下さい。
- ※チリボウキで水を付けてチリをふかないで下さい。水が壁面に付着すると変色します。
- ※養生テープの取り外しは、上塗材を塗り付けた後、早めに取り外して下さい。
- ※気温が5℃以下になる場合の施工は避けて下さい。やむを得ず施工する場合は温度管理を行って下さい。(特に、冬期の施工はご注意下さい)
- ※練り水の量を誤ると色ムラ・クラックが生じやすくなりますので、基準水量を厳守して下さい。
- ※季節・気候による影響がありますので、基準水量を基に現場で微調整して下さい。
- ※練り水には、水道水、またはこれに準じる清水を使用して下さい。
- ※下地のムラ乾きに注意して下さい。ひび割れ、色ムラの原因となります。
- ※メルシーは、石灰が配合されております。このため、仕上の際、壁面(仕上面)に水を与えると・色ムラになりますのでご注意下さい。
- ※パターン付けをする「ハケ」「ホウキ」「スポンジ」「スタイロ」等を洗って使用する場合、水が付いていると色ムラになりますのでご注意下さい。

施工上の注意

- 適合下地を確認して下さい。適合下地以外の場合は、弊社までご連絡下さい。
- ジョイント処理材は必ずジョイント処理材(J-1)をご使用下さい。 ※ジョイント処理材は必ず2回、ジョイント処理して下さい。市販のパテ材だとクラックが発生したり、色ムラになったり、透けて見える場合があります。
- 仕上げ材は基準水量を守って下さい。色ムラやテカリ、粉浮き、ダレの原因になります。
- 仕上げ表現は、多少のこてなみが残ります。しっくいのような押さえは不向きで、平滑な仕上げは「なで切り仕上げ」までです。表面にパターンをつけた方が表面積が増えるので、機能UPになります。
- 一袋当たりの施工面積は平らなせっこうボードに塗った場合の㎡数なので、出隅・入隅等役物が多い場合はその分材料が必要になります。
- 合成化学樹脂入りの塗材と同じように中途半端な乾燥状態の時重ね塗りをしたり、あるいは後から部分的に塗ると色ムラになります。
- メルシーシリーズを施工する場合は、入隅～入隅迄は一気に塗り上げて下さい。途中で休んで塗り継ぐと、塗り継ぎのムラが出ます。
- 夏場の直射日光等で急激な乾燥状態が起こると、ドライアウト現象が発生して剥がれる場合があります。
- 冬期の施工の場合暖房して施工しますが、暖気を直接当てるとひび割れが発生する場合があります。暖気を施工箇所直接当てないで、室温15℃～25℃を保って下さい。「冬期施工の注意(P-3)」を参照して下さい
- 5m×5m以上の面にメルシーを施工する場合や、壁の裏側に、エレベーターや空調の吹出し口などの振動するようなものがある場合、付着強度を高めるためにシーラー3倍液(モルタル接着増強剤)を全面に塗布するか、全面にジョイント処理材J-1を塗った後に、メルシーを施工してください。(通常の場合は必要ありません)
- 電気ドリルなどの振動するようなもので、激しく振動を与えると剥がれる恐れがあります。

付着強度を高めるために通常はジョイント部だけを巾広でジョイント処理材を塗りますが、ビス頭を処理する時に幅広で上下左右に十文字のようにジョイント処理材を塗っておくと付着強度が上がります。

安全上の注意～応急措置

製品をより良くする為に研究開発をしております。このため、無断で改良する事がございますのでその旨ご了承下さい。
指定の用途、方法以外にご使用の場合は保証しかねますのでご注意下さい。

【安全上の注意～応急措置】

- 目に入らないよう注意して下さい。誤って入った場合は、速やかに清潔な水で洗眼し、医師の診断を受けて下さい。
- 鼻から吸引しないよう注意下さい。誤って吸引した場合は、速やかに水または温水でうがいをし、気分が悪くなったときは医師の診断を受けて下さい。
- 口に入れないよう注意して下さい。誤って飲み込んだ場合は、速やかに大量の水を飲んでのどの奥を押し出して吐き出した後、医師の診断を受けて下さい。
- 皮膚に付けないよう注意して下さい。誤って付着した場合は、アルカリ性が強いので手が荒れることがありますので、石鹸および大量の水で洗い流して下さい。(廃棄上の注意)
- 開封後の製品および練った後の材料の廃棄も、セメントと同様に産業廃棄物として適切な処理をして下さい。

【輸送上の注意】

- 輸送に携わる方も、取り扱いに注意して下さい。取り扱い後は、顔、手、口等の露出部分を水で洗浄して下さい。
- 製品の破袋・荷崩れ、また降雨などによる水漏れに注意して下さい。(漏出時の注意)
- 飛散した粉体は、速やかに掃除機等で回収して下さい。(取り扱いおよび保管上の注意)
- 作業者は保護マスク・保護メガネ・保護手袋を着用して下さい。取り扱い後は、顔、手、口等の露出部分を水で洗浄して下さい。
- 製品の扱いもセメント同様をお願いします。湿気のないところに保管し、開封後は使い切ってください。

基準水量を必ず守ってください！

- 基準水量を誤ると、「色ムラ」「クラック」「粉浮き」「白華」「テカリ」等の原因となります。
- バケツに基準水量の水を入れ、メルシーを初めは8割位入れてよくカクハンして下さい。
- 十分に練れたら、残りの2割を徐々に加えて5分間カクハンして下さい。
- ソフトクリーム状の粘度で、見た目はやや硬めでもコテは伸びます。
- 2[㎡]以上の不陸(ふりく)は、ジョイント処理材で調整してから施工して下さい。

【スーパーメルシー(KI)基準水量】

入目	施工厚	施工面積	基準水量
15.5Kg	2.0mm	7.0~8.0㎡(目安) (塗り方によって異なります)	9.0~9.5ℓ

【メルシーライト(HS)基準水量】

入目	施工厚	施工面積	基準水量
13.5Kg	1.5mm	8.0~10.0㎡(目安) (塗り方によって異なります)	8.0~8.5ℓ

【ジョイント処理材(J-1)基準水量:石膏ボードジョイントの場合】

入目	施工法	施工面積	基準水量
5Kg/袋	左官	約50m/石膏ボード約30㎡分	シーラー2倍液 2.0~2.5ℓ

【ジョイント処理材(J-1)基準水量:ビニールクロスの場合】

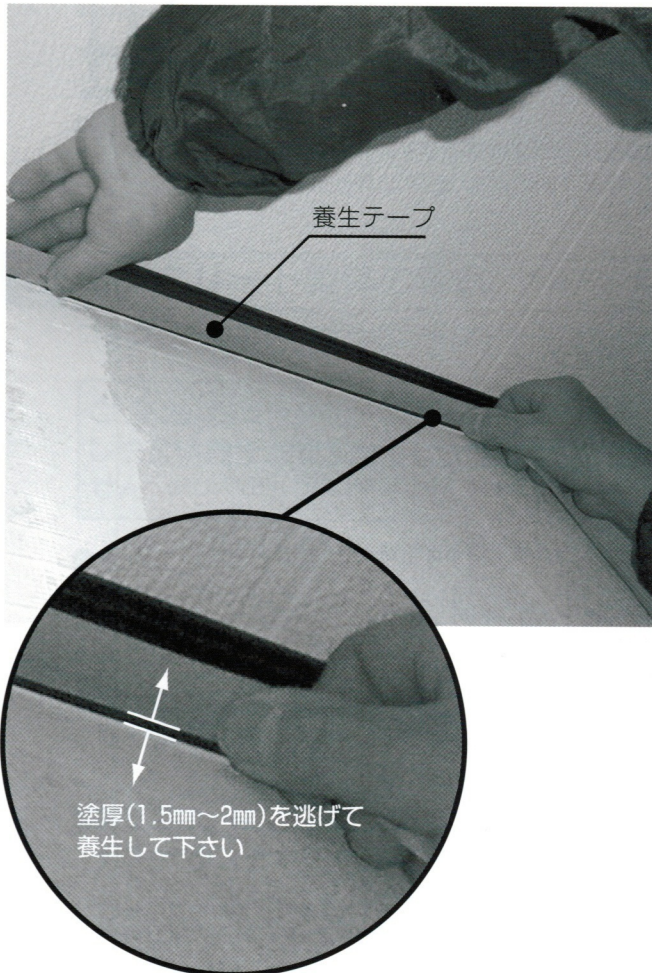
入目	施工法	施工面積	基準水量
5Kg/袋	ローラー ハケ	約40㎡	シーラー2倍液 4.0ℓ

※ 基準水量は、季節や現場条件によって異なりますのでご注意ください。

※ 石膏ボードジョイントの場合、シーラー3倍液でも問題はありませんが、2倍液の方が石膏ボードの水引きとパテの水引きが一定になりやすいです。

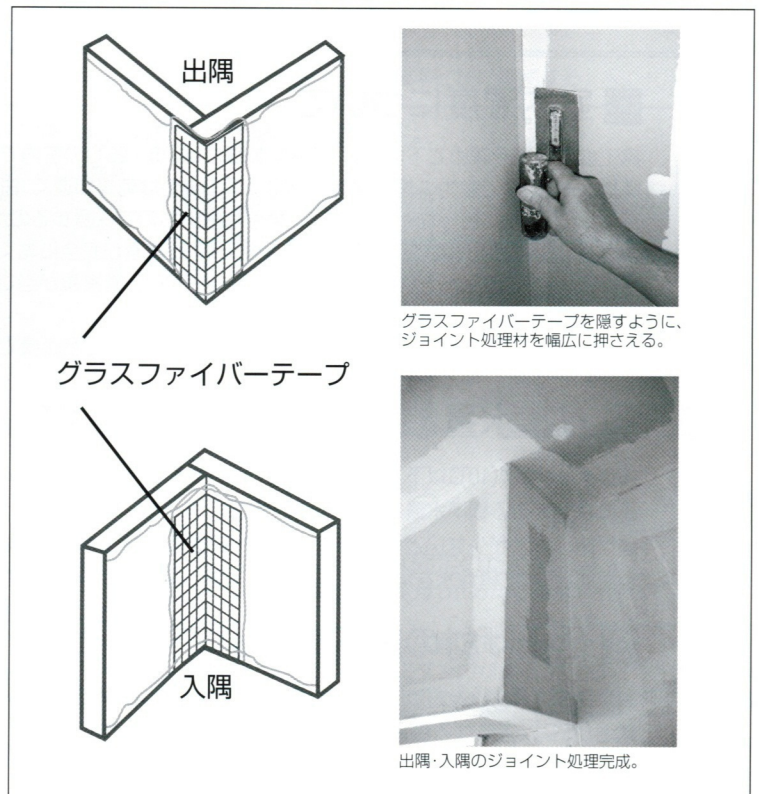
養生はしっかりと行ってください！

■写真のようにマスキングテープ等で養生する場合は、塗厚スーパー2mm/ライト1.5mmを逃げて養生して下さい。



【出隅、入隅部の処理】

- 1) グラスファイバーテープを張る。(出隅、入隅部)
- 2) ジョイント処理材でグラスファイバーテープを隠すように巾広にしごきます。(コーナー定規は使わない方が仕上がりが綺麗です)



メルシーに消石灰を配合しているわけ

■ 消石灰を配合する利点

消石灰は昔からしっくいで使用され、空気中の炭酸ガスと反応して年々硬くなっていきますので、経年劣化も心配ありません。(のりだけで固めているものは、経年劣化しやすい。)

表面の強度も硬くなるので、ポロポロ落ちるような事はありません。(表面が弱いとポロポロ落ちやすく微粉末が舞う場合があります。)

消石灰を入れる事によってアルカリ性になるので、カビ対策にも効果を発揮します。(中性のものは、乾燥が悪いとカビが生える場合があります。)

■ 消石灰を配合する欠点

寒い時期に施工すると、白華現象(色が白っぽくなる)起きる場合があります。ただ、乾くまでの間(1~2日)暖を採って部屋を暖めれば白華は起きません。施工される方に、ご迷惑をお掛けしますが下記の要領で冬期は施工して下さい。乾燥してしまえば、白華現象は起きません。

消石灰を除いて製品を作る事が出来ませんが、経年劣化は早くなりますし、表面強度も弱くなります。さらにカビも生えやすくなるので、メルシーシリーズは消石灰を配合しています。

冬期施工の注意

冬期に施工する前に必ずお読み下さい。

珪藻土のもつ機能の最大限の発揮と、より安全な製品の提供を心がけており、内容物にこだわり、石油化学系原料の使用を極力控えています。

この為、冬期に施工する場合には、伝統的な左官材料に特有な白華・色むら・粉浮きのおそれがあります。

お手数ですが、以下の注意点を御守りいただきますようお願い申し上げます。尚、ご不明の点は、施工前に弊社までご確認ください。

■ 室内温度について

施工前に室内を暖めて下さい。順調な乾燥には、15~25℃の室内での施工が最適です。

特に、一日の中で室内の最低温度が15℃以下の場合は乾燥が遅く、白華の危険性があります。

エアコン・オイルヒーターなど湿気の発生しないもので採暖するのが最適です。

暖を採って乾燥を早めて下さい。施工後1~2日、表面が完全に乾くまでは、部屋の温度が昼夜を通じ15℃以下にならないよう採暖してください。(エアコン・オイルヒーター等で、直接風が当たらないように注意して下さい。)開口部は、風が入らないように養生して下さい。

但し、湿気がこもらないように時々湿気を逃がして下さい。扇風機で風を回しながら暖を取ると乾燥が早くなります。

■ 基準水量とカクハン時間について

練り水は、冷水(10℃以下)を避けて下さい。水が多すぎると、白華しやすくなります。

袋に書いてある標準水量を必ず守って下さい。

混ぜ始めは水が少ないと感じますが、3分を過ぎると塗りやすい硬さになります。最低5分間混ぜて下さい。材料が締まって練り戻すときは、極力水を加えずにマゼラーで練って下さい。元の硬さに戻ります。

3 仕上げ材の施工について

メルシーはパターン付け・荒らし専用です。コテ押さえは色むらの原因となりますので平滑な仕上げはしないで下さい。

気温が5℃以下になる場合の施工は避けて下さい。やむを得ず、施工する場合は、温度管理を行って下さい。(特に冬期の施工の場合はご注意ください。)

適合下地について

※合板・ベニヤの下地への施行は不適です。(アクがでるおそれがあります。但し、ア止めシーラー等を塗ること等で施行が可能になる場合もあります。下地によって状況異なりますので詳細についてはご相談下さい。)

メルシーシリーズは、せっこうボード下地に直接塗れるように開発された製品です。水引き等をせっこうボードの紙に合わせていますので、他の下地の上に施工する場合は、マニュアルをよく読んで頂いて施工して下さい。詳しくはお問い合わせ下さい。

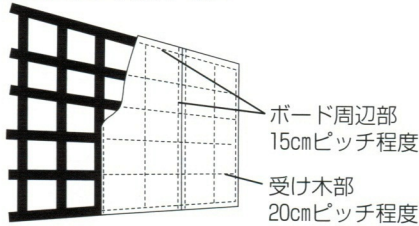
1 せっこうボードの場合 [12.5mmベベルエッジ(Vカットボード)]

【せっこうボード施工の注意】

- ※ せっこうボードは隙間のないように張り込んで下さい。
- ※ 3×6ボードより3×8ボードをお勧めします。横目地がなくなるのでクラック防止になります。
- ※ せっこうボードの小口に木工用ボンドを塗って張り合わせて下さい。ボードが面になるので、かなりクラックの防止になります。
- ※ せっこうボードは下地受木の上で継ぎ足し15cm~20cmピッチでビス止めをして下さい。
- ※ ビスは垂鉛メッキまたはステンレスビスをご使用下さい。(メルシーシリーズはアルカリ性なので、サビは発生しません)
- ※ 強く打ちすぎて、ビス頭がボード表面からめり込まないようにして下さい。
- ※ ドア・窓枠の隅の廻りにせっこうボードの継ぎ目を作らないよう事前に大工さんとお打ち合わせ下さい。
- ※ 廻り縁や巾木の施行を標準として下さい。(ソフト巾木は不適です)
- ※ せっこうボードを横に張ると、受木が無いのでジョイント部でクラックが発生します。受木の上にジョイント部がくるように、必ず縦に張ってください。

2 木造下地の場合 [JASS15左官工事2.9に準拠する]

理想的な木造下地▼



ボード周辺部
15cmピッチ程度
受け木部
20cmピッチ程度

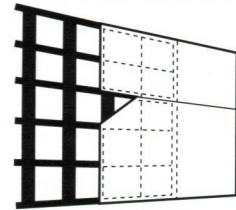
縦横の受木がある上に、
天地1枚ボードで張り付ける

横受木が無い場合▼



必ず天地方向を1枚のボードで仕上げ、
横継ぎを作らないようにします。
また、この場合は生木によるソリ、ネジレ
に特に注意して下さい。

ボードの天地が足りない場合▼



必ず横受木の上で継ぎ足し、
横継ぎ手もビス止めます。

3 コンクリート躯体の場合 [社団法人石膏ボード工業会、“せっこうボード直張り工法”標準仕様に準拠する]

コンクリート躯体にせっこうボンドのダンゴを用いてせっこうボードを貼り付けます。

GL工法は、クラックが発生しやすいのでおすすめしません。

●せっこうボンドの塗付ピッチ

腰壁部 200~250mm
腰壁上部250~300mm
ボード周辺部150~200mm

●せっこうボンドの使用量

仕上げ厚20~25mm
せっこうボンドの使用量約3~4.5kg/㎡

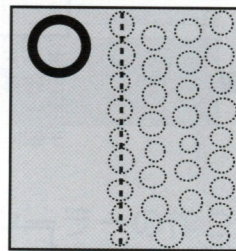
●継ぎ目は少なく!

せっこうボードは継ぎ目の数が少なくなるよう、ボードのサイズはあらかじめ貼り付け壁面に合ったものを選び、横目地の継ぎ手がなるべくできないようにします。

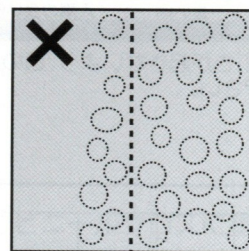
【せっこうボードの長さ】

1820mm/2420mm/2730mmなどがあります。

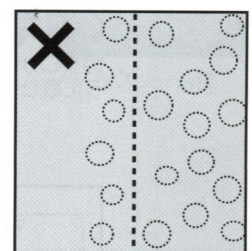
●ダンゴは規定どおりの量を



せっこうボード直張り工法どおり

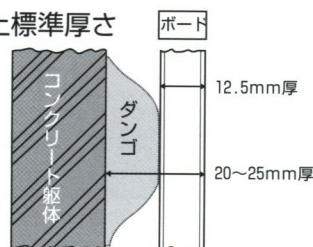


ダンゴが継ぎ目から離れている



ダンゴの数が少ない

●仕上標準厚さ

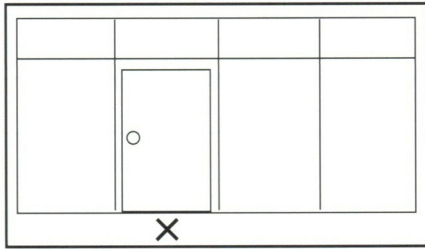


ボードの十分な固定のために
ダンゴは必ず規定量(㎡あたり重量)を使って下さい。

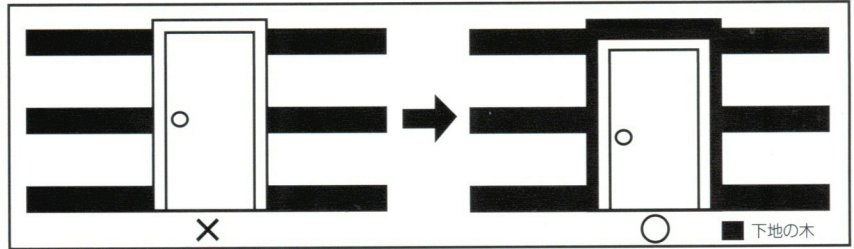
継ぎ目部の万全な固定のために
継ぎ目部の真下にダンゴがあるようにして下さい。上塗りのクラック防止のためには、この2点は特に重要です。

せっこうボードの貼り方

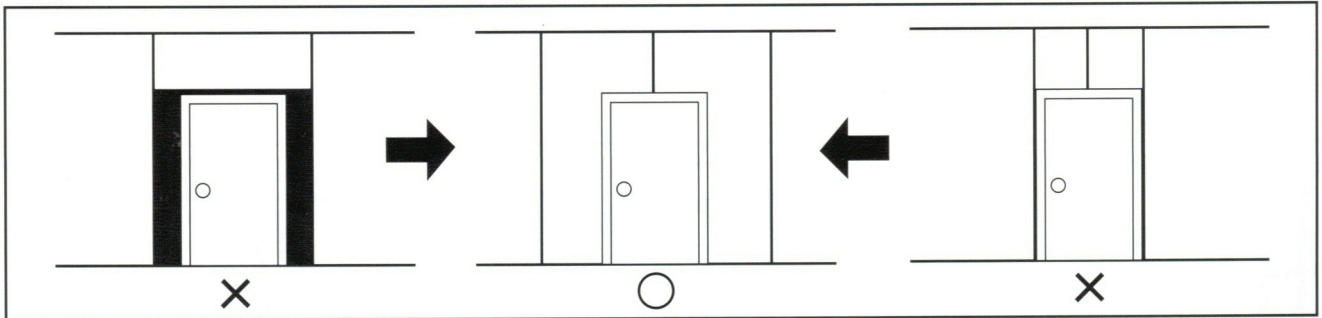
せっこうボードはベベルボード(Vカットボード)をお薦めします。(厚さ12.5mm)



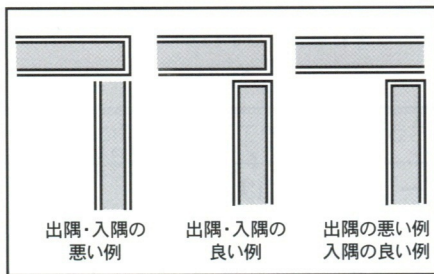
タテヨコに目地が通ると、ボードとボードの目地(ジョイント)が動きやすく、クラックが発生しやすい。



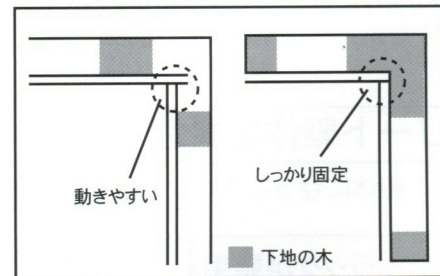
ドアは開け閉めするのでかなり動く。これにより割れが発生することも多い。下地の木を横に打つだけでなく、ドアまわりにぐるりと下地木を打てば、せっこうボードをしっかり固定することができ、割れが防げる。



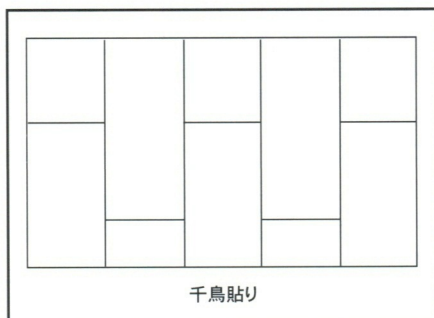
ドアの脇など、ボードを細く切って貼ると、すき間が出やすく、クラックが発生しやすい。また、ジョイント部がドアの縦枠の延長線上に来た場合もクラックが発生しやすい。



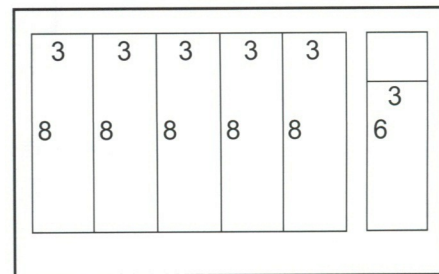
切り口からの水引きが起きないように、図のように取り付けて下さい。



ボードがしっかり固定されずに動いてしまうと珪藻土も割れる。入りすみ部分の下地の木は、ボードがしっかりと固定されるように角にL字型に打つこと。



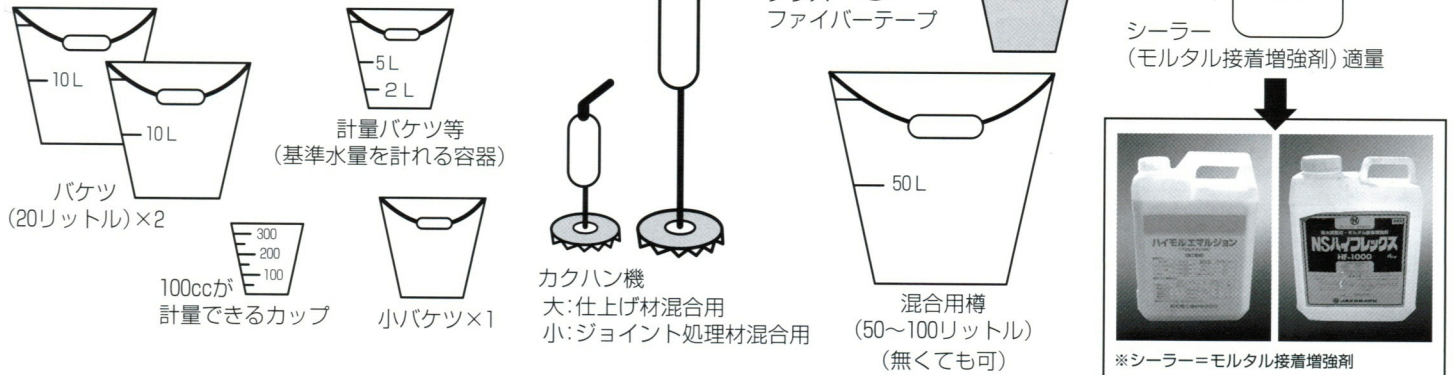
ハンパ分をたがい違いに貼ると横の目地を通らないので、クラックが発生しにくくなる。ボードを切る手間は変わらない。



3×8, 4×8サイズのボードを使えば天井まで1枚で貼れる。横目地がなくなるので、クラック防止にもなる。

材料の準備

【事前に準備いただきたいもの】



ジョイント処理材の準備

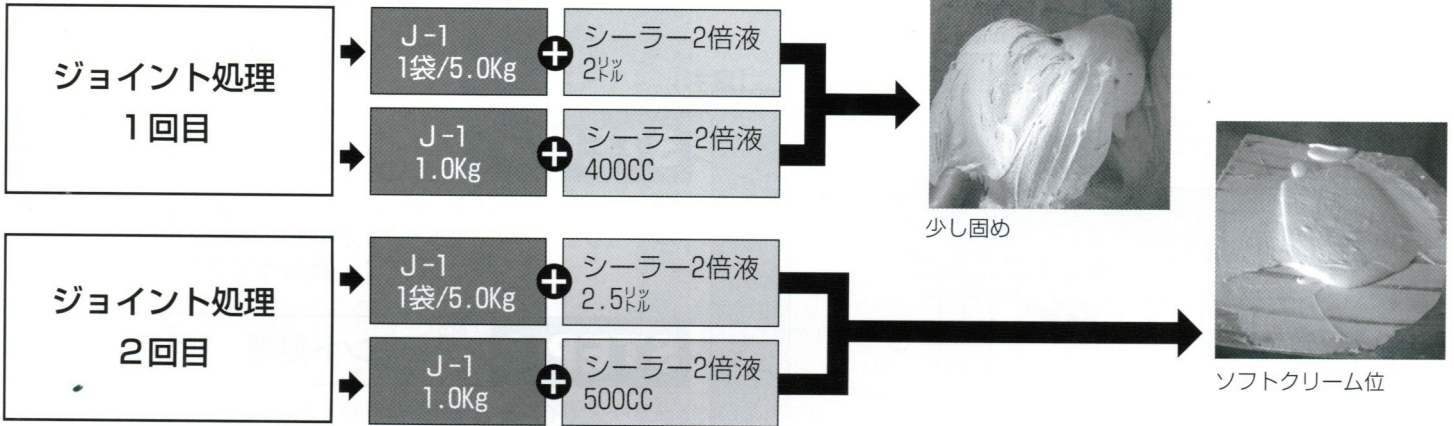
【石膏ボードジョイント処理のパテの作り方】



- ①ジョイント処理材(J-1)とシーラー2倍液(シーラー1に対して清水1の割合)を用意します。
- ②小型カクハン機などを使いダマにならない様によく練ってご使用下さい。
- ③ジョイント処理材1kgでジョイント部分を約10m(目安として、石膏ボード約6㎡分のジョイント)施工出来ます。

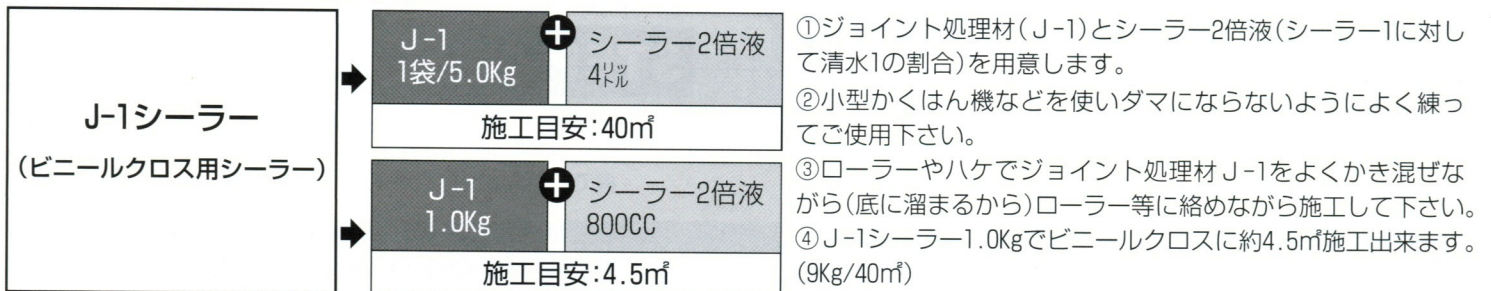


※ J-1に対するシーラー2倍液の分量



【ビニールクロス用シーラー = J-1シーラーの作り方】 ビニールクロスに塗る場合

※ J-1に対するシーラー2倍液の分量



ジョイント処理材(J-1)によるジョイント処理

石膏ボード下地の場合 厚さ12.5mm ベベルエッジ(Vカット)をご使用下さい。

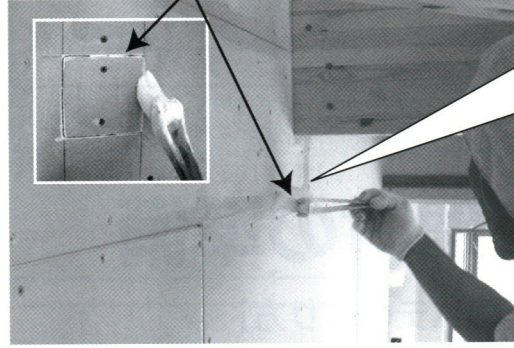
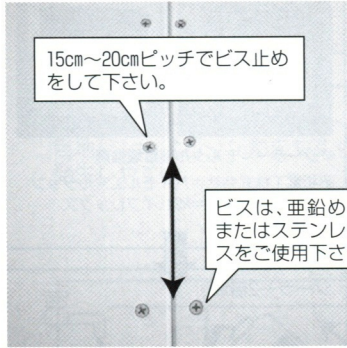
ボードのビス止めを必ずして下さい。

ジョイント部が動かないように、下地受木の上で継ぎ足し、15cm~20cmピッチでビス止めをして下さい。ビスは垂鉛めっきまたはステンレスビスをご使用下さい。

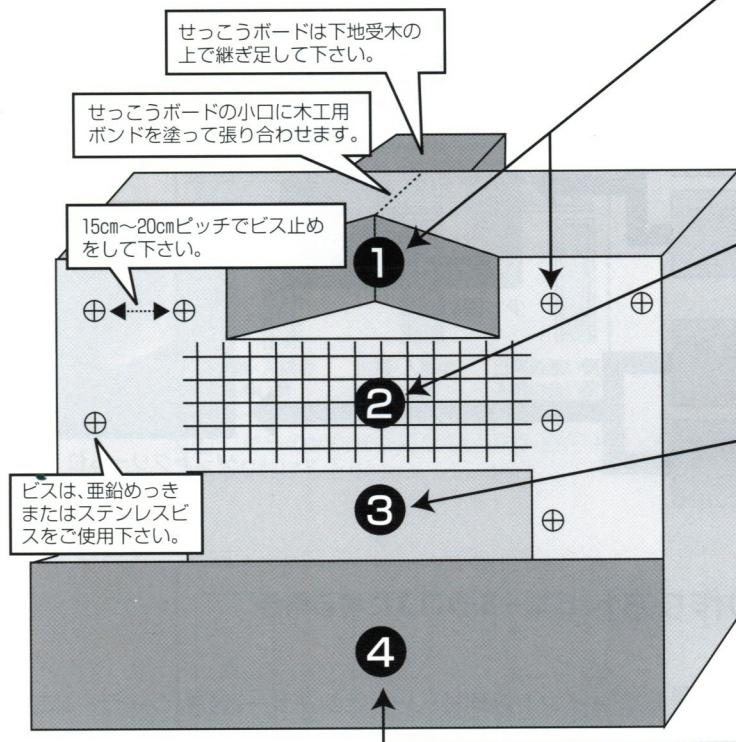


入隅・出隅をシーラー処理して下さい。せつこうボードの紙が切れている時も、切り口をシーラー処理して下さい。

せつこうボードの紙が破けていたり切つてある場合は、水引きが異なるのでシーラー2倍液(モルタル接着増強剤)を最初に塗ります。



施工図解



STEP-1 ジョイント処理 1回目

ジョイント処理材(J-1)1*あたりシーラー2倍液400ccで、ダマにならないように小型かくはん機などでよく練り、Vカット部分に詰め込みビス頭も処理して乾燥させます。(かた目のパテを使用します)

STEP-2 ファイバーテープによる補強

市販のグラスファイバーテープを使用して下さい。(クロス・ベンキ下地用のナイロン製等は不可)

STEP-3 ジョイント処理 2回目

ジョイント処理材(J-1)1*あたりシーラー2倍液500ccで、ダマにならないように小型かくはん機などでよく練り、ファイバーテープを隠すように15~20cmの中広に塗ります。乾燥が悪い場合色ムラになりますので、完全乾燥して下さい。(やわらかめのパテを使用します)

STEP-4 仕上げ

水の量は「基準水量」を確認の上、かくはん機で5分間よくかき混ぜ合わせた後、約5分間練り置きして再度かくはん機で2分間混ぜ合わせてご使用下さい。

【スーパーメルシー】 2.0mm厚
【メルシーライト】 1.5mm厚

ジョイント処理用のパテを準備します。



ジョイント処理材 (J-1)

ジョイント処理 (J-1) 用に1回目のパテを少し固めに練ります。2回目用のパテはソフトクリーム位の柔らかさで練ります。



1回目用のパテ (固め)

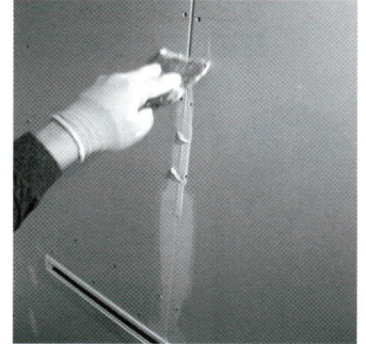


2回目用のパテ (ソフトクリーム位)

STEP-1

ジョイント処理 1回目

ジョイント処理材 (J-1) 1㎡あたりシーラー2倍液400ccで、ダマにならないように小型かくはん機などでよく練り、Vカット部分に詰め込みビス頭も処理して乾燥させます。(固めのパテを使用します)

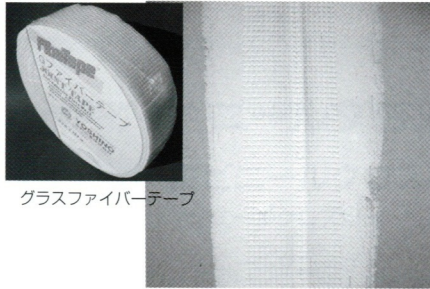


STEP-2

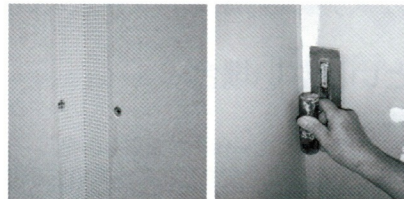
ファイバーテープ補強

1回目のジョイント処理が乾燥したら、グラスファイバーテープを貼ります。

※-1 出隅・入隅もグラスファイバーテープとジョイント処理材で補強します。



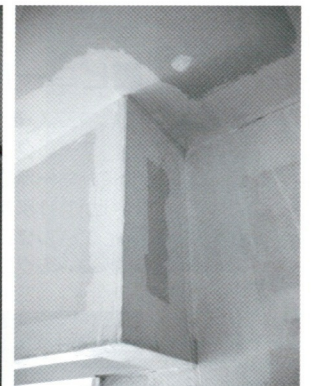
グラスファイバーテープ



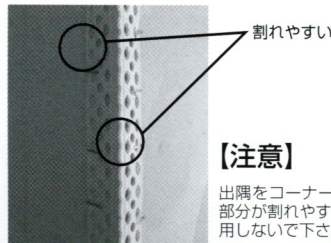
出隅・入隅にグラスファイバーテープを貼り、グラスファイバーテープを隠すように、ジョイント処理材を幅広く押さえます。



出隅処理完成



出隅・入隅処理完成



【注意】

出隅をコーナー定規で処理すると○印の部分が割れやすいので、コーナー定規は使用しないで下さい。

コーナー定規使用例

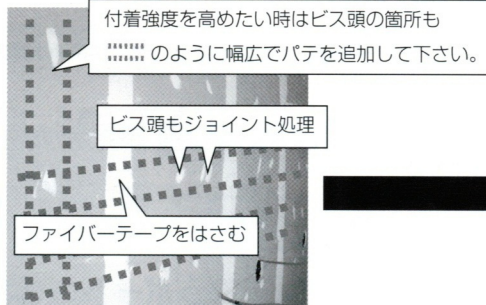
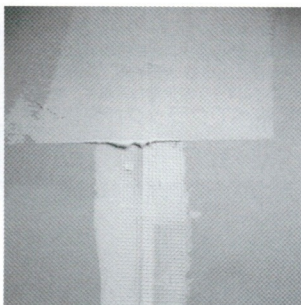
STEP-3

ジョイント処理 2回目

ジョイント処理材 (J-1) 1㎡あたりシーラー2倍液500ccで、ダマにならないように小型かくはん機などでよく練り、ファイバーテープを隠すように15~20cmの中広に塗ります。乾燥が悪い場合色ムラになりますので、完全乾燥して下さい。(やわらか目のパテを使用します)



2回目用のパテ (柔らかめ)



付着強度を高めたい時はビス頭の箇所も
..... のように幅広くパテを追加して下さい。

ビス頭もジョイント処理

ファイバーテープをはさむ

天井面や大壁面又は振動が伝わるような場所 (ドア枠廻り・エレベーターの裏側・階段の蹴込) にはビス頭だけではなく、ジョイント処理をするように中広でやわらかめのパテを十字で入れるか全面塗ると付着強度が向上します。

STEP-5

仕上げ (ボード直塗り)

材料の練り方は、「仕上げ材メルシーの施工 (14P)」を参照してください。
塗りパターンは、「テクスチャーガイド (15P~17P)」を参照してください。



ジョイント処理を行う場合に、手を抜いてグラスファイバーテープを貼ってから、ジョイント処理材 (J-1) を1回しか処理しない状態だと、ジョイント部が目立ったり、クラックが発生しやすくなることがあります。ジョイント処理は、1回目が乾いてから必ず「STEP-3」のジョイント処理2回目を行ってください。

ビニールクロス下地へのメルシー施工方法

ビニールクロスの下地処理には以下の3つの方法があります。現場の状況や、予算、工期に応じて、施工方法を選んでください。各方法とも、利点・欠点がありますのでよくご検討下さい。
クロスのりやクロス用のシーラーを「F☆☆☆☆製品」を使用しても、アレルギー体質の方には匂いなど敏感に反応する場合がありますので、施工前に触って頂いたり、匂いを嗅いで頂いたり、よく確認をしてから施工方法を決めて下さい。

1

せっこうボードから、全てやり直す方法があります(推奨)

アレルギー体質の方にお勧めします。

長所

ビニールクロスが家の中から完全になくなるので、アレルギー体質の方にも安心。

短所

石膏ボードを新規に施工するので、工事が大規模になり、工期が延びて施工費も高くなる。

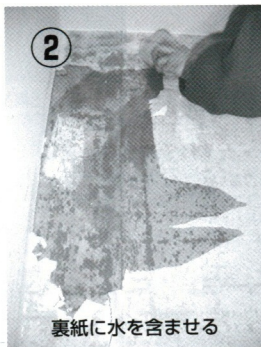
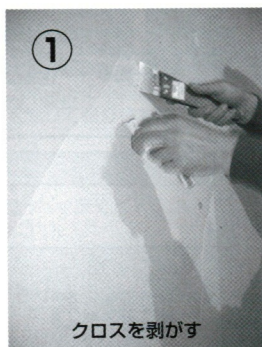
2

ビニールクロス剥がして施工する方法があります

せっこうボード迄はやり直せないが、「ビニールクロスが残るのは嫌、剥がして施工したい」という方にお勧めです。

■ビニールクロス剥がさないといけない場合

- ①紙クロス・布クロスのように、水分を吸収する物。
- ②ビニールクロスでもコンクリートに直接貼られていて、タッカー留めが出来ない物。
- ③タッカー無しでJ-1シーラー(ビニールクロス用シーラー)だけでも施工は出来ますが、クロスの「のり」が効かなくなると剥がれる恐れがあります。
- ④ビニールクロスの凹凸が、3ミリ以上ある物。
- ⑤ビニールクロスの凹凸が、3ミリ以下でもクッション性がある物



ビニールクロス剥がします。ビニールクロス剥がすと必ず裏紙が残ります。この裏紙を水を付けながらきれいに取り除いて下さい。裏紙が残っていると、シーラー処理してもその残っている部分だけ珪藻土を塗って乾燥すると、膨らんでくる場合がありますので、きれいに裏紙を取り除いて下さい。

長所

ビニールクロスが家の中から完全になくなるので、アレルギー体質の方にも安心。

短所

- ①ジョイント部にクロス用パテが使用されているので、石膏ボード下地に較べてクラックが発生しやすい。
- ②裏紙を綺麗に剥がさないとその部分だけ浮いてしまうことがある。
- ③裏紙をとる作業が大変で、施工費が割高になる。
- ④ビニールクロス剥がすとビニールクロスでふさがれていたクロス用のパテの化学物質が出てくる場合があります。

■クロス剥がした後の処理 - (せっこうボードの場合)

●ビニールクロスの裏紙をきれいに取り除いてからの施工方法

- ①ジョイント部の処理が、ビニールクロス用パテで行われているので、その上から、グラスファイバーテープで補強します。入隅・出隅も同様の処理をして下さい。
- ②グラスファイバーテープを隠すように巾広でジョイント処理材(J-1)を上からしごき塗ります。(P-8を参照)
- ③ジョイント処理材が乾燥したら、シーラー2倍液を全面塗布します。ローラーで縦・横2度塗りして下さい。(アクが出そうなら、アク止めをして下さい。これは現場判断です。)
- ④シーラーが完全乾燥したら、メルシーシリーズを施工して下さい。



■クロスを剥がした後の処理 - (ベニヤの場合)

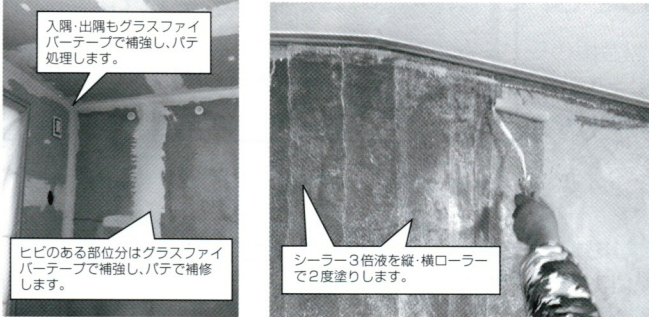
●ビニールクロスの裏紙をきれいに取り除いてからの施工方法

ジョイント部、入隅・出隅がある場合は、ベニヤ下地の処理をしてください(P-11を参照)

■クロスを剥がした後の処理 - (コンクリートの場合)

●ビニールクロスの裏紙をきれいに取り除いてからの施工方法

凹凸(2ミリ以上)が大きい場合は、不離調整をしてから施工して下さい。



入隅・出隅もグラスファイバーテープで補強し、パテ処理します。

ヒビのある部分はグラスファイバーテープで補強し、パテで補修します。

シーラー3倍液を縦・横ローラーで2度塗りします。

■既存コンクリートの施工も下記と同様です。

- ①ヒビ・入隅・出隅がある場合は、グラスファイバーテープで補強して下さい。
- ②グラスファイバーテープを隠すように巾広でジョイント処理材(J-1)を上からしごき塗ります。
- ③シーラー3倍液を縦・横ローラーで2度塗りして下さい。(アクが出そうなら、アク止めをして下さい。これは現場判断です)シーラーが完全に乾燥したらメルシー・シリーズを施工して下さい。



シーラー3倍液

シーラー1:清水2

シーラー=モルタル接着増強剤
ハイモルエマルジョン等



※コンクリート下地の場合の注意点

- ・凹凸(2ミリ)がある場合は、不離調整して下さい。
- ・型枠に剥離剤を使用している場合は、シーラー処理しても剥がれる場合があります。
- ・コンクリートの乾燥状態に応じて、ブクが出る場合があります。

3 ビニールクロスを剥がさないで施工する方法があります

■ビニールクロス剥がさないでよい場合

※ビニールクロス用シーラー(J-1シーラー)が必要です。P6の「シーラーの作り方」を参照して下さい。

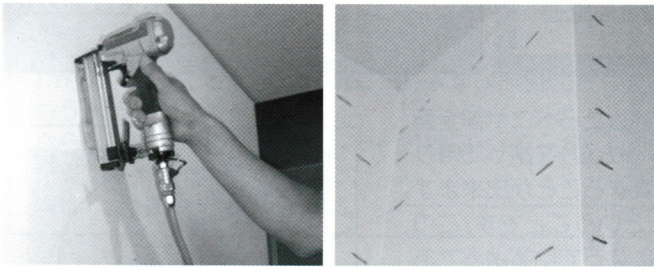
- ①ビニールクロスが、ベニヤやせっこうボードに貼られていてタッカー留めが出来る場合。
- ②ビニールクロスの凹凸が、ほとんど無い物。(凸凹やクッション性があると、亀の子状にクラックが出る可能性があります)
- ③ビニールクロスのクッション性が無い物。

長所

施工が簡単で、工期と施工費が抑えられる。

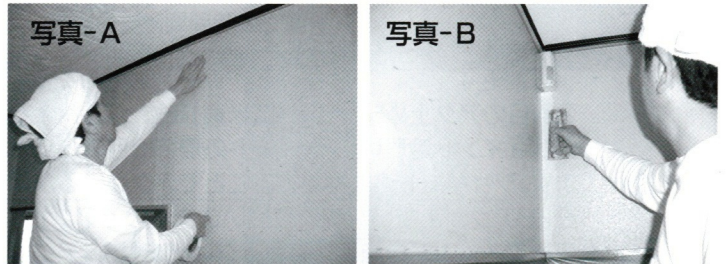
短所

ビニールクロスは残ったままなので、アレルギー体質の方には不安が残る。



ビニールクロス剥がさないで施工する方法

ビニールクロスの継ぎ目や剥がれてタッカーを入れた箇所は、1cm位の短いピッチでタッカー留めをして下さい。ビニールクロスの付着力にも異なりますが、10~30cm間隔でタッカー留めをして下さい。剥がれかかったクロスやチリから出っ張ったビニールクロスはタッカーできれいに整えて、剥がれてしまった箇所は裏紙まできれいに取って下さい。



ファイバーテープで補強します。

ビニールクロスの継ぎ目・入隅・出隅にグラスファイバーテープを貼って補強します。(写真-A)ジョイント処理材(J-1)でグラスファイバーテープを隠すように巾広でしごき塗りをして下さい(写真-B)。



写真-C

ビニールクロスの継ぎ目
入隅・出隅の処理完成

写真-D

ビニールクロスの継ぎ目、入隅・出隅の処理が完成したら、J-1シーラー(ビニールクロス用シーラー)を全面にローラー・ハケ等で塗布し(写真D)24時間かけて完全乾燥させて下さい。



ビニールクロス用シーラー
J-1シーラー

P6ビニールクロスに塗る
場合を参照して下さい。



メルシーを施工します。

養生をしっかりと行って、施工して下さい。

【注意】

乾燥が悪いと匂いが残る場合があります。クロス用のシーラーをF☆☆☆☆製品を使用しても、アレルギー体質の方には匂いなど敏感に反応する場合がありますので、塗布後は換気をよくして必ず24時間乾燥させてください。

ベニヤ下地へのメルシー施工方法

ベニヤなどのアク止めは、ベニヤとアク止め剤との相性がありますので、下記の方法で必ず止まるという訳ではないので、使用しているベニヤの残りで試してからアク止めを行って下さい。

極力ベニヤ等の木部が無いように、せっこうボードを貼って下さい。

また、アレルギー体質の方には、F☆☆☆☆製品のシーラーでも敏感に反応される場合がありますので、よく確認されてからお使い下さい。

ベニヤがある場合は必ず一番先にアク止をして下さい

ベニヤの「ジョイント部、入隅・出隅がない」場合

- ① ベニヤ部がある場合は朝一でアク止めシーラー久米蔵を原液のまま塗ります。
- ② 午後一でもう一度アク止めシーラー久米蔵を原液のまま重ね塗ります。

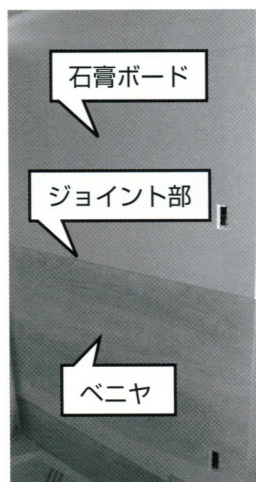
※注意 ベニヤの「ジョイント部、入隅・出隅がある」場合と「下地が異なる」場合

久米蔵 ベニヤアク止め塗料



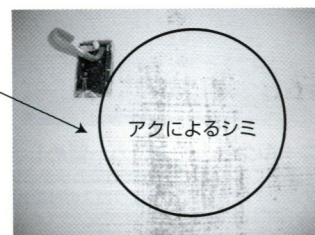
木の呼吸を妨げず、木質の表情を生かす仕上がりです。水溶性なので、水の希釈加減で濃さが調整でき、刷毛やローラーで簡単に施工できます。
原液のまま2度塗り(常温で3時間間隔)4kg/2度塗りで10~15㎡目安

常温で3時間間隔



- ③ 2回目のアク止めシーラー「久米蔵」を塗って、常温で3時間経過したらベニヤ部全面にジョイント処理材(ジョイント処理2回目のパテ、ソフトクリーム位)を塗って帰ります。ジョイント処理材を塗ることでアクが出るかどうかを確認することができます。翌日、アクが出ていなければ白いままなのでアク止めが効いたということです。この状態でメルシーを施工するとアクは出ません。アクが出てシミになっているようであれば再度アク止めを行って下さい。
多少の斑点位のシミならアク止めシーラー「久米蔵」を再度一回塗布することで止まる場合もありますが、心配であれば、上記の方法で2回アク止めをして、さらにジョイント処理をもう一度して翌日シミの確認をしてからメルシーを施工して下さい。

- ④ 下地が完全に乾燥したことを確認したらメルシー・シリーズを施工します。



アクによるシミ

アク止めが効いてないとアクによるシミが出ます。

ベニヤの木部にはアク止めが必要です。アク止めシーラー久米蔵を原液のまま時間をおいて(常温で3時間間隔)2回塗ります。

ベニヤの「ジョイント部、入隅・出隅がある」場合と「下地が異なる」場合は、上記②の手順を処理した後、以下A・B・Cの処理をし、手順③④へと進んで下さい。

ジョイント部「入隅・出隅」の処理

ベニヤ部とのジョイント処理は、ベニヤ部にアク止めシーラー(上記①②)処理をしてアク止めシーラー「久米蔵」の2回目終了後、常温で3時間経ったら行って下さい。

- A ジョイント部のみ先に、ジョイント処理材(J-1)を詰め込みます(P-7参照)。
- B グラスファイバーテープでジョイント部(P-7参照)、入隅・出隅(P-2参照)を補強します。
- C グラスファイバーテープを隠すように巾広に塗り、さらに③のように残りのベニヤ部も全面に塗ります。



下地が完全乾燥したことを確認したら、メルシーシリーズを施工します。

その他のメルシー施工方法

※石膏ボード、ジョイント処理材(J-1)以外の下地の場合、必ずシーラー処理(シーラー2~3倍液)が必要です。

メルシーシリーズは吸放湿機能が高いので、上記下地以外はシーラー処理をして下地の吸いこみ(水引き)を一定にする必要があります。シーラー処理をしないと急乾燥による剥離(ドライアウト)が起こり、剥がれる場合があります。

じゅらく、京壁、繊維壁などは、 施工前に塗り壁を剥がす必要があります。

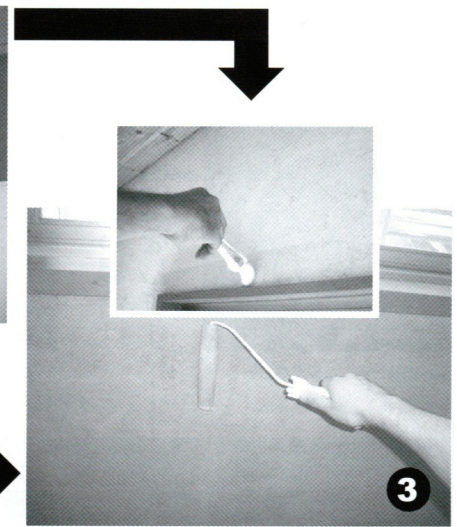
じゅらく壁や京壁のように表面強度が弱い塗り壁の場合は、塗り壁を剥がして中塗りの下地の上にシーラー処理(シーラー3倍液)して、乾燥させてからメルシーシリーズを施工します。



塗り壁の上に剥離剤を塗って、塗り壁を剥がしやすくします。



お好み焼きのヘラのようなもので、塗り壁を剥がします。



シーラー処理(シーラー3倍液)をします。縦・横にローラーとハケで塗り残しがないように丁寧に塗ってください。アクが出そうな場合は、この上にアク止めシーラーをします。(これは現場判断です)

漆喰や表面強度のある珪藻土など、塗り壁を剥がさないでも施工出来る場合があります。塗り壁を剥がさないで施工する場合は、上記①と②は省略されますので、③のシーラー処理(シーラー3倍液)から始めて下さい。

中性の塗り壁や中性の珪藻土にカビが生えている場合、防カビ剤「セナバリア」を塗布後、塗り直すことが出来る場合があります。表面強度がある塗り壁材は、下記の方法で施工できます。1㎡100cc目安でセナバリアを塗布します。48時間後もう一回セナを塗布します。さらに48時間後に③のシーラー処理(シーラー3倍液)から始めて下さい。詳しくはお問い合わせ下さい。

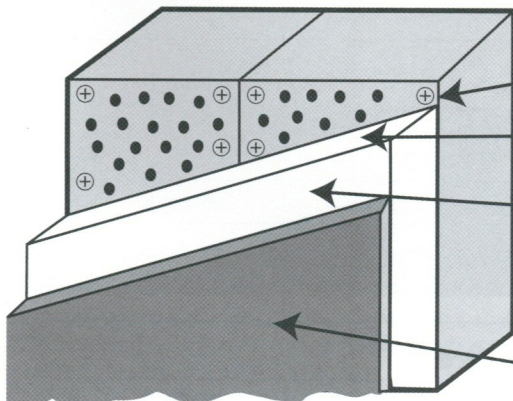


壁の黒い斑点がカビです
防カビ剤「セナバリア」塗布



シーラーを完全乾燥させてからメルシーシリーズを施工して下さい。

ラスボードに施工する場合



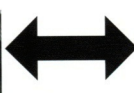
- ① ビス止めをします。
- ② せっこう中塗りを7~10mm厚で施工します。(乾燥期間を充分に取ってください)
- ③ シーラーの3倍液を全面塗布します。
→ シーラー:モルタル接着増強剤(ハイフレックス・ハイモルエマルジョン等)
縦・横、ローラー等で均一に塗って下さい。
シーラーの塗りが方が均一でない、色ムラの原因になります。
- ④ シーラーを完全に乾燥(24時間)させます。
仕上材のメルシーをパターンを付けて塗って下さい。

メルシーシリーズは、吹き付けでの施工も出来ますが、吹き付けだと表面強度が弱いので、こてによる施工方法をお勧めします。どうしても吹き付けをご希望の方は、お問い合わせ下さい。

メルシー・シリーズ 施工方法



基準水量の全量をバケツに入れる



①と②の間にごちらの処理をします。



バケツの中にメルシーを8割程度入れる



少し攪拌する



残りの2割をバケツの中に入れる



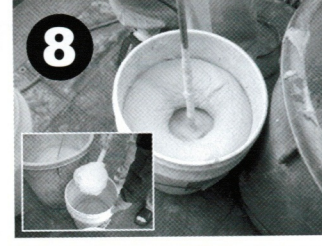
練り始めの1~2分は、かなり硬く感じる



3~4分で段々柔らかくなってくる



5分経つと、かなり柔らかくなる



5分間練り置きして、小さなバケツに移してさらに2~3分攪拌する



練りあがり
材料の硬さは、ソフトクリーム位。しっくいのようにドロドロにすると失敗します。



バイオ珪藻土仕様 施工方法

※100ccを入れるカップをご用意下さい。



バイオ液を水道水の中に入れる。



よく攪拌し5分間置く。

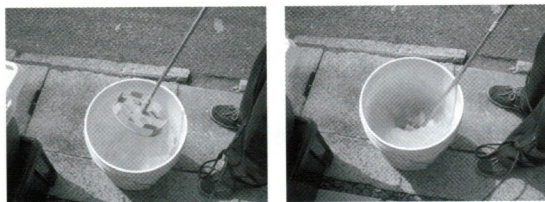


バイオ珪藻土をバイオ水の中に入れる。

- ① 水道水の中にバイオ液100ccを入れて下さい。
- ② よく攪拌して5分間置きます。
- ③ バイオ珪藻土1袋を、5分経ったバイオ水の中に入れて攪拌します。
- ④ 最後にメルシー・シリーズを入れて攪拌して下さい。

ご注意

攪拌機・バケツ等の洗浄は、材料がまだ柔らかい内に速かに行ってください。



別のバケツに水を用意し、すぐに攪拌機を洗って下さい。
(固まる前だと攪拌機に付着した珪藻土は回せばすぐに落ちます)



大きなバケツが無くても、20%のペール缶でスーパーメルシー、メルシーライトを1袋ずつ練ることが出来ます。

※基準水量を必ず守って下さい。

【スーパーメルシー(KI) 基準水量】

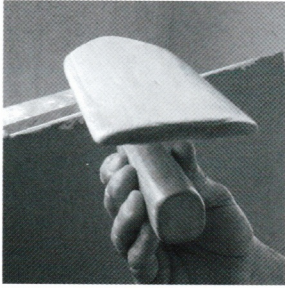
入目	施工厚	施工面積	基準水量
15.5Kg	2.0mm	7.0~8.0㎡(目安) (塗り方によって異なります)	9.0~9.5% (季節によって異なります)

【メルシーライト(HS) 基準水量】

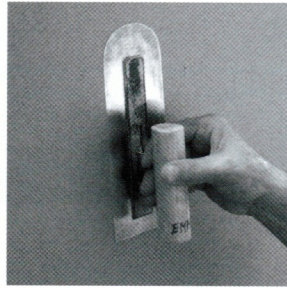
入目	施工厚	施工面積	基準水量
13.5Kg	1.5mm	8.0~10.0㎡(目安) (塗り方によって異なります)	8.0~8.5% (季節によって異なります)

テクスチャー・ガイド

各パターン付けは、プロの方でも、個人の方でも簡単に施工できます。



木こてによるパターン付けは写真のような船底タイプの木こてを使用します。船底タイプの木こてがなければ、平らな木こての両サイドを削り、サンドペーパーで丸みをつけた木こてをご使用下さい。



金こてによるパターン付けは、まず面を金こてでほぼ平らにした後表情を付けていく方法です。しっくりのように真平にする必要はありません。逆に多少のデコボコや、こて波が残っていた方が表現が豊かになります。



メルシーシリーズは骨材が入っていますので、薄く塗ると右の写真のように骨材が転がってスジが入り、見た目もよくありません。施工厚で塗ると左写真のように綺麗に仕上がります。ただし、塗り方によっては意図的に骨材を転がして右写真のようにワザとスジを入れる場合(デザイン)もあります。

●木こて引きずり



木こての真ん中で軽く押しながら横にスライドさせると、材料が引っ張られて、引きずり模様を表現することが出来ます。あまり押さえつけないようにご注意ください。

●木こて引きずりヘッドカット



木こて引きずりで表現した模様が多少乾いたら、下敷きのような柔らかいもので軽く凸部分をやさしく撫でるように左右に引っ張ると、仕上がりの表情が柔らかく表現できます。

●木こてランダム



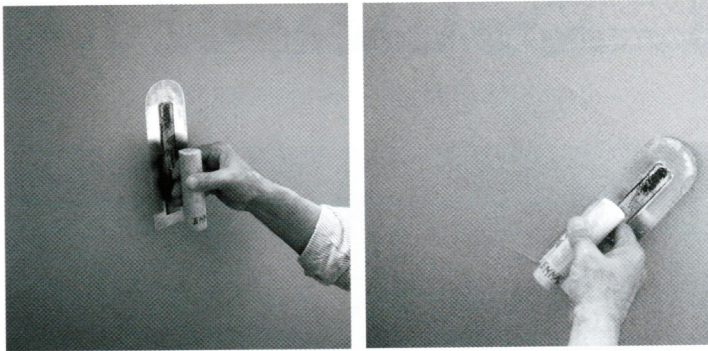
木こての真ん中で軽く押しながら∞の字を描くイメージで模様付けをします。材料が引っ張られて、引きずり模様を表現することが出来ます。あまり押さえつけないようにご注意ください。

●木こてランダムヘッドカット



木こてランダムで表現した模様が多少乾いたら、下敷きのような柔らかいもので軽く凸部分をやさしく撫でるように模様に応じて引っ張ると、仕上がりの表情が柔らかく表現できます。

●こてなみ残し



金こてで、ほぼ平らにします。金こてが通った跡が、直線や波の模様になるようにします。軽くなぞるイメージで施工してください。

●パターン塗り



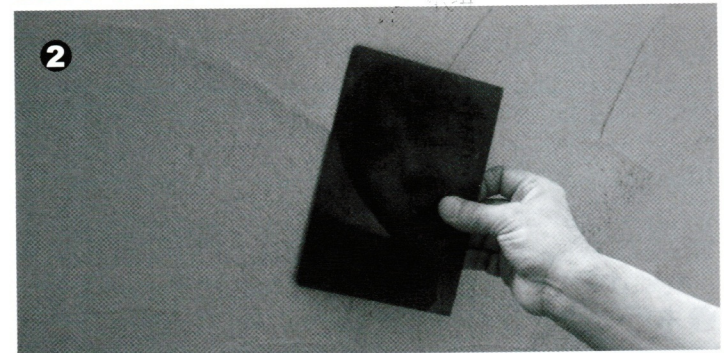
金こてを少し浮かして、材料の粘りを感じながら横へ引くと、材料がこてに引っ張られる部分(ささくれ状)と平らになる部分がランダムに出る模様を表現することが出来ます。

●塗りっぱなし



金こてで、ほぼ平らにした後、面を交差させるイメージで金こてを引っ張ります。こてなみ残しより、波の線を大きく表現します。

●塗りっぱなしヘッドカット



左写真①で表現した面を、下敷きのような柔らかいもので凸部分をヘッドカットすると、やさしい表情に仕上がります。

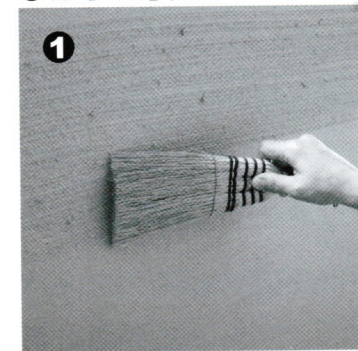
●ハケ引き



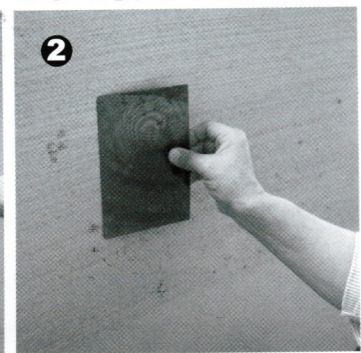
金こてで、ほぼ平らにした後、写真のようにハケを寝かせながら横に引いていきます。ハケの角度でハケ溝の深さが変わります。ハケ目は寝かせれば柔らかく、立てれば荒く表情が出ます。

材料がハケについたら水洗いして下さい。ただし、水切りをタオルなどでよくしておかないと、材料に水がついてしまい、色ムラの原因になりますのでご注意ください。

●ほうき引き



ほうき引きヘッドカット



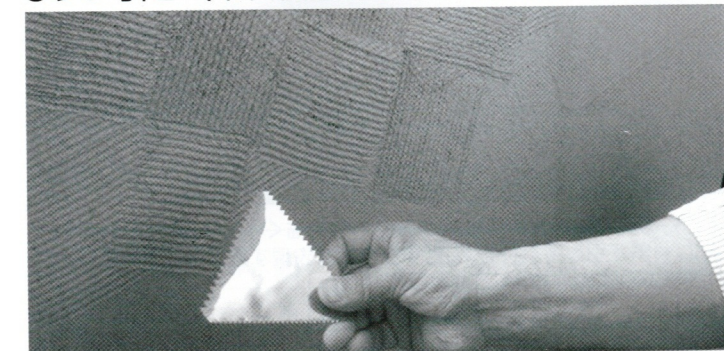
金こてで、ほぼ平らにした後、①のようにほうきを寝かせながら横に引いていきます。ほうきの角度でほうき溝の深さが変わります。下敷きのような柔らかいもので凸部分をヘッドカットすると、やさしい表情に仕上がります(写真②)。材料がほうきについたら水洗いして下さい。ただし、水切りをタオルなどでよくしておかないと、材料に水がついてしまい、色ムラの原因になりますのでご注意ください。

●クシ引き



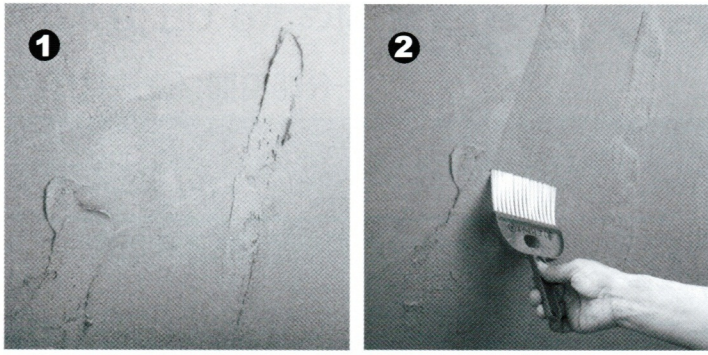
△や凹のクシで、横に溝を付けていきます。波打つ感じで横に引いてもいいでしょう。ケーキのデコレーション用に使われるクシが綺麗に表情を付けることが出来ます。

●クシ引き (市松模様、ランダム模様)



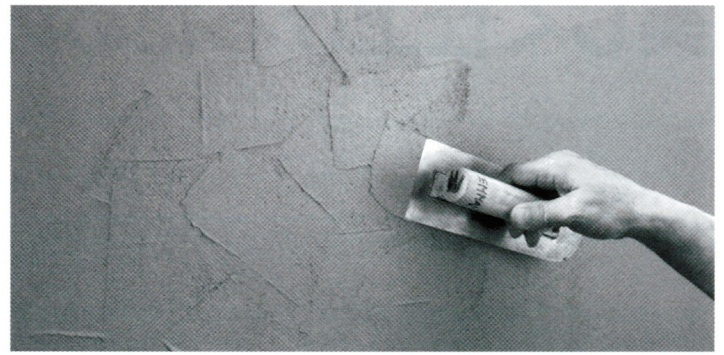
△や凹のクシで、ほぼ同じ長さで縦、斜め、横に模様を付けていきます。トイレや洗面所など、狭い場所でちょっとした変化を付けたい場合におすすめの表情です。

●砂岩調



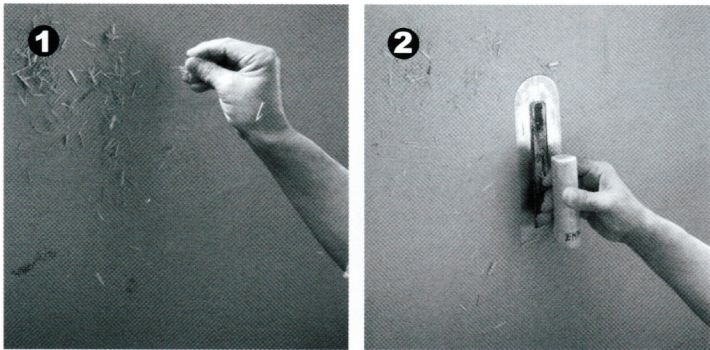
金ゴテで珪藻土を塗る際、①のように厚みをつけながらランダムに模様をつけます。その後、ハケで模様のある箇所を斜めに引いて②のように砂岩調のイメージを出します。あまり強く押さえつけないように軽くなでるように引きます。

●スパニッシュ



金ゴテでほぼ平らに仕上げた後、金ゴテのこて下を使って写真のようにランダムに模様をつけます。

●わら入り



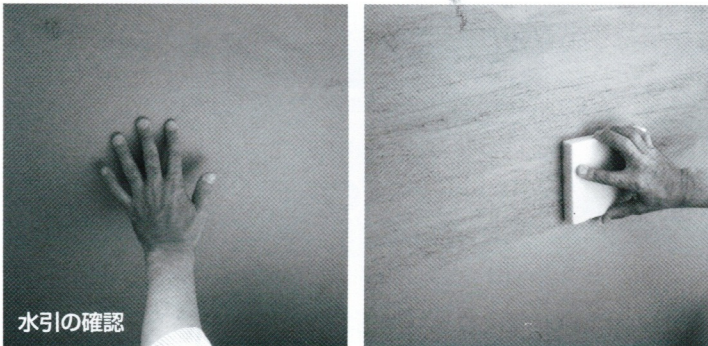
金ゴテでほぼ平らに仕上げた後、ワラを手で投げ付けます。このままだと乾いたときぼろぼろ落ちてくるので、金ゴテでワラを軽く押さえつけます。

●わら入りスポンジ荒し



左写真-①、②でつけたワラの面が多少乾いたらスポンジで半円を描くようにこすり付けます。すると、ワラが表面に出てきて表情が完成します。材料がスポンジについたら水洗いして下さい。ただし、水切りをタオルなどでよくしておかないと、材料に水がついてしまい、色ムラの原因になりますのでご注意下さい。

●スタイロ引き



金ゴテでほぼ平らにした後、水引を確認してください。手に付くか付かない位がスタイロ引きに丁度いい状態です。スタイロを横に引いて模様を付けます。

●スタイロ荒し



金ゴテでほぼ平らにした後、左の写真のように水引を確認した後、スタイロで∞字を描くように模様を付けます。材料がスタイロについたら水洗いして下さい。ただし、水切りをタオルなどでよくしておかないと、材料に水がついてしまい、色ムラの原因になりますのでご注意下さい。

●手形&オブジェ

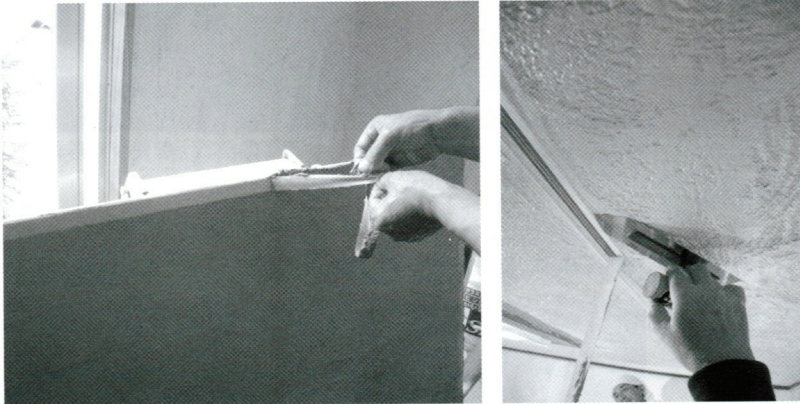


金ゴテでほぼ平らにした後、手形を付けたい場所に手をしっかりと押さえつけます。手形を付ける場所は、少し厚めに塗っておいて下さい。手を離すとき、一気に剥がすと材料が付いてきますので、少しそのままにしてゆっくり少しずつ離します。

ガラス球や貝殻、その他ドライフラワーなどを貼り付けても面白いです。

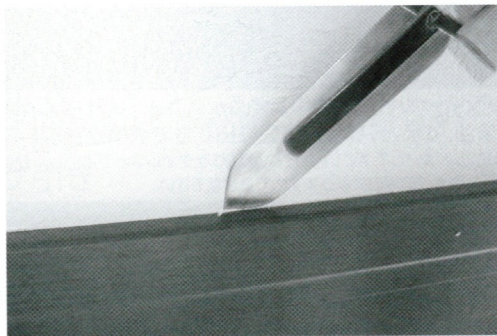
美しく仕上げるためのテクニック

【テクニック-1】 養生テープをうまく利用する



養生しておくことで、テープを剥がすだけでラインが綺麗に出せます。養生を剥がして、材料が盛り上がった部分を金こてなどで軽く押さえると、綺麗に仕上がります。

【テクニック-2】 ちり際を整える

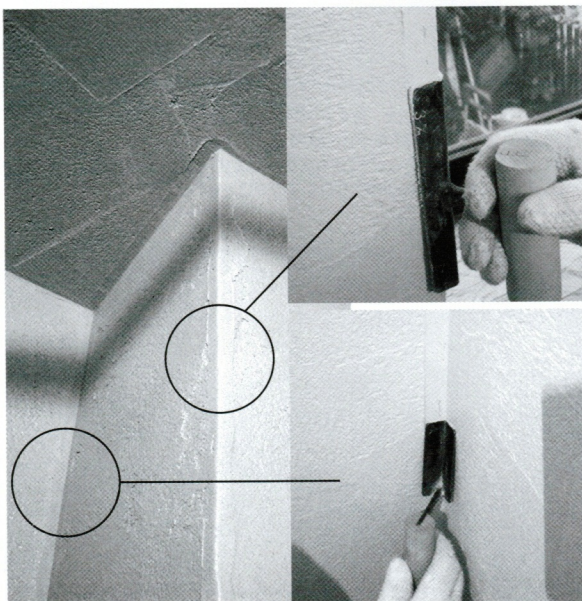


材料が盛り上がった部分を金こてなどで軽く押さえるてラインを出す、綺麗に仕上がります。



細かい箇所もキッチンとテープ養生することでラインが綺麗に出ますので、美しい仕上がりになります。

【テクニック-3】 入隅・出隅をコテで押さえる



出隅・入隅をコテなどで軽く押さえてやると綺麗に仕上がります。

【テクニック-4】 額縁のように仕上げる



写真の様にコテで軽く1~2cm幅でラインをつける仕上げ方法もあります。額縁のアクセントを希望される場合に施工してください。



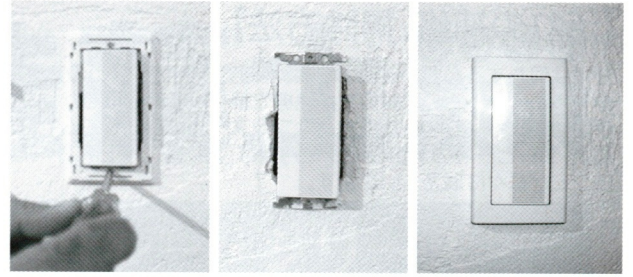
美しく仕上げるために、注意が必要な施工場所

戸当り(振動)、開口部分



▲印の部分はクラックや剥がれが発生しやすい場所です。特に戸当り部分や空調廻り、開口部分は、上下左右を巾広にパテ処理しておくことで、クラックの発生や振動による剥がれが抑えられます。

スイッチ廻り



スイッチ廻りは、養生テープではなく、カバーを外してから、塗りこんでください。

【参考】



ここにジョイントがないのでクラックが発生しにくい。

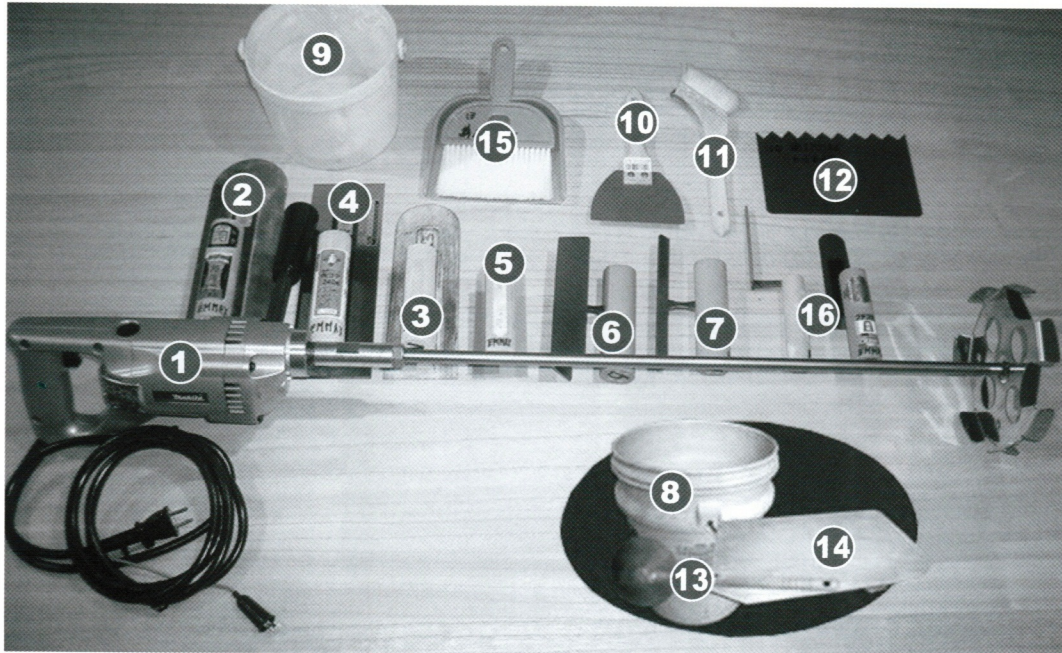
開口部にボードを貼る場合は、写真のようにジョイントが出ないように貼ることをおすすめします。



階段部分などの狭い場所で、物がぶつかりやすい出隅は、写真のように木製のコーナーで表して補強する方法もあります。

美しく仕上げるための道具一式

道具一式はレンタルできます。詳細はお問い合わせください。



1. 攪拌機: 材料を混ぜる機械です。
2. 丸ゴテ(大): 仕上げのパターン付けに使用します。
3. 丸ゴテ(小): 狭い場所の仕上げに使用します。
4. 角ゴテ: 塗り付けに使用します。
5. プラスチックコテ: ちり際の仕上げ、パターン付けに使用します。
6. 入隅用コテ: 入隅(部屋の隅など)の仕上げに使用します。
7. 出隅用コテ: 出隅(柱の角など)の仕上げに使用します。
8. 攪拌用バケツ(20L): 材料を混ぜる際に使用します。
9. バケツ(3L): ジョイント処理材を混ぜるのに使用します。
10. ゴムヘラ: バケツの回りに付いた材料を落とすのに使用します。
11. ブラシ: シーラー処理が必要な時に使用します。
12. 下敷き: 仕上げ(ヘッドカット)に使用します。
13. わんこ: 材料をすくうひしゃくです。
14. コテ板: 材料をのせる板です。
15. 刷毛: 仕上げ(刷毛引き)に使用します。
16. その他細部施工用コテ: 狭い場所の仕上げに使用します。

体験会を開催しませんか?

施主様や設計士様を招いて体験会を催されるときは、お気軽に弊社にご相談ください。会場準備の手順や講義の内容などをレクチャーいたします。また、敷島による講義を直接希望される場合は、2万円+交通費実費にて承ります。お受け出来ない地域もございますので、予めご確認ください。



汚れ、傷、クラックの補修方法

【汚れの補修、掃除方法】

普段は何もする必要がありません。静電気が発生しないのでほこりが乗っかる場合がありますが、くっ付かないのでもしほこりが気になるようならブラシをやわらかいものに替えて掃除機で軽くほこりを取るかたきで軽くほこりを落として下さい。やってはいけない事は濡れたタオルでこする事です。手垢、鉛筆、物がこすれた痕などはプラスチックの消しゴムで軽くこすって下さい。醤油、コーヒー等の水溶性のシミ汚れは、霧吹きで一日に2~3回水をかけて乾燥させる作業を繰り返して下さい。吸放湿機能の高いメルシーシリーズならシミが徐々に消えていきます。

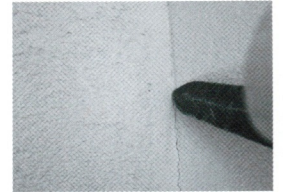
※上記の方法でも、クラックやシミ等が目立つ場合は、和紙等の調湿を妨げないものをデザインカットして貼るのも方法です。

【クラックの補修方法】

■入隅のクラックの場合

入隅にヘアークラックが出る場合があります。(出隅に入ることはまずありません。)この場合は、爪かコテの入隅用の先の尖ったコテ等で軽く、クラック部分を削ります。色が濃いものは、多少白っぽくなりやすいので軽く削って下さい。その後、小さい霧吹きで水を1~2回振り掛けて終了です。

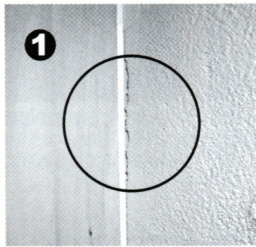
入隅のクラック補修



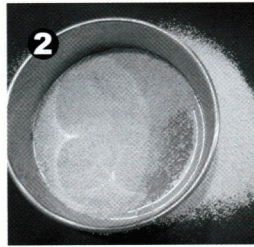
写真のような先が丸くつがった物で軽く削ります。

■ヘアークラックの場合

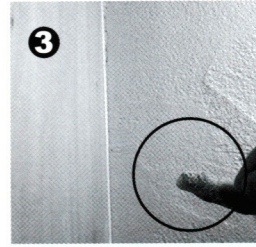
同じ品番の材料を、目の細かいふるいでふるい、骨材や繊維を取り除いた粉を作り、手でつまんでヘアークラックの上から軽くこすりつけ、回りについた粉を軽くはたいてから、霧吹きで軽く水をかけます。乾燥してクラックが目立たなければ終了です。



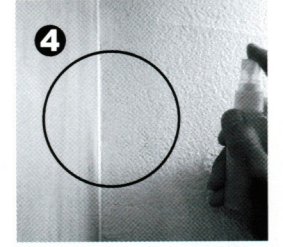
1 木部が動いてクラックが発生



2 同じ品番の粉をふるいでふるう



3 ふるった粉を指に付けて(またはパストに入れて)クラックの中にすり込む



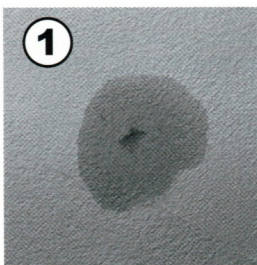
4 1~2回霧吹きで水をかけて終了

■上の方法でクラックがまだ目立つ場合

同じ品番の材料を目の細かいふるいでふるい、骨材や繊維を取り除いた粉をビニール袋の中に入れ、この中に粉の5割くらいの水を入れ、ソフトクリーム位の硬さに練って下さい。クラック部分の周りに霧吹きでたっぷり水をかけ(タオルで垂れてくるのを押さえながら)薄手のゴム手袋をして塗った粉をクラックにそっとすり込みヘラや柔らかい下敷きで平らにしてすぐにはみ出した粉を乾いたやわらかい布又は、やわらかいスポンジでふき取り乾燥させます。はみ出した粉が残っていると色ムラになりますので注意して下さい。

【傷の補修方法】

硬い物などをぶつけてしまって傷が出来てしまった場合は、写真のように傷の周りに霧吹きで水をたっぷりかけ下さい。これがポイントなんです。メルシーは特に機能(吸放湿量)が高いので、乾いたままの状態に練った材料を付けると色ムラになりますのでご注意ください。



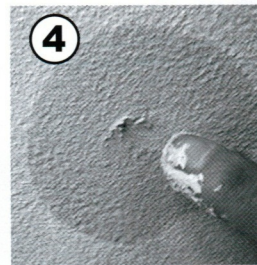
1 霧吹きで傷の周りに水をたっぷり吹きかけます。



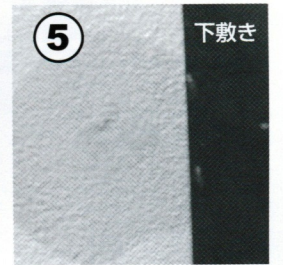
2 次に施工した同じ粉をふるいにかけます。目が細かければ細かい方がいいです。小さいキズの補修であれば、さらにパストのように目の細かいものでふるいます。骨材などが全て取り除かれた微粉末の粉だけを使います。



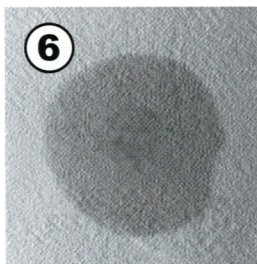
3 左の微粉末の粉をビニール袋などに入れて、水を足してよくこねます。この時の練りあがりは、硬めでいいです。



4 傷の部分に材料を指で詰め込みます。



5 余分な材料を下敷きなどで軽く落とし、濡れタオルでシミ抜きをするように軽く叩きながら落とします。



6 乾燥させて完成です。乾燥して色が合わないようなら、乾いた粉をパストに入れて上から叩いて色合わせをします。



出隅・補修前 → 出隅・補修後
出隅の傷も上記と同様の方法で補修して、自然に乾燥すればほとんど分らないで補修出来ます。